

社会科学習指導案

広島市立矢野中学校
教諭 中原卓也

- 1 日時・場所 平成25年12月11日(水) 5校時 1年4組教室
- 2 学年・学級 1年4組(男子17名 女子16名 計33名)
- 3 単元名 「聖徳太子の政治改革」(古代国家の歩みと東アジア世界)

4 単元について

○ 教材観

本単元は、古代日本の律令国家形成過程について理解することをねらいとしている。律令国家の確立までに、聖徳太子の政治、大化の改新という政治改革を経て、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みは整えられた。聖徳太子の政治や大化の改新は、小学校での既習内容であるが、中学校での学習において、とりわけ東アジアと関係を持ちながら古代日本の律令国家が形成された過程を理解させる必要がある。したがって、東アジア世界の地図や諸政策の資料の読み取りを通して、資料から歴史的な事象について思考・判断・表現する力を育成できる教材である。

○ 生徒観

社会科の学習について、多くの生徒が意欲を持って取り組むことができている。また、地理的な分野に比べて、歴史的な分野の方が興味を持って取り組むことができるという生徒も少なくない。自ら学習活動へ意欲的に取り組むことができる生徒に対して、基本的な学習内容の定着に課題を抱えている生徒たちは、学習活動に参加するための個別の支援が必要である。小グループで交流することを通して、ひとりひとりの学習意欲を維持し、歴史的な事象に対する思考・判断・表現する力を向上させたい。

○ 指導観

以上のことから、本単元では、東アジア世界とのかかわりのなかで、聖徳太子の政治改革から天皇・貴族の政治が展開した歴史的な過程について、主要な資料について読解しながら説明できる生徒を育成したい。絵や写真を提示することで、学習意欲とイメージを持った状態で、資料の読解や思考の段階へ学習を展開する。その際、協同学習の手法を活用することで、知識の習得や資料の読解および思考をより円滑に進めさせ、最終的には個人で歴史的な事象を説明させていく。

5 単元の目標

- ・天皇・貴族の政治と当時の文化の展開に関心を持ち、意欲的に学習している。
- ・律令国家形成過程の政治と古代の日本で栄えた文化の特色について考察することができる。
- ・諸資料から、律令国家形成過程の政治と古代の日本で栄えた文化の特色を読み取ることができる。
- ・律令国家形成過程の政治と古代の日本で栄えた文化の特色についての知識を身につけている。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
○天皇・貴族の政治が展開され、国際的な要素を持った文化が後に国風化したことに関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	○聖徳太子の政治から大化の改新を経て確立した律令国家が、めざしていた政治とその特色について考察している。 ○仏教の影響や文化を担った人々などに着目し、古代の日本で栄えた文化の特色について考察している。	○天皇・貴族の政治の展開についての様々な資料を読み取り、年表にまとめることができる。 ○法隆寺や正倉院の宝物、仮名文字など代表的な事例について様々な資料から、古代の文化の特色を読み取ることができる。	○古代日本の律令国家確立過程と、天皇・貴族の政治の展開を理解して、知識を身につけている。 ○大陸の文化を積極的に取り入れた文化が都を中心に栄え、日本的な文化が成立したことを具体的な事例から理解し、知識を身につけている。

7 指導と評価の計画 (全7時間)

時	学 習 活 動	評価の観点・規準・方法
1 (本時)	聖徳太子の政治改革について、東アジアの情勢とかかわらせて理解する。	意欲的に聖徳太子の政治改革の学習に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】(観察) 聖徳太子の政治改革を行った理由について考察している。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)
2	大化の改新から律令国家の確立に至るまでの経過のあらましを理解する。	大化の改新から律令国家の確立に至るまでの経過を年表に的確にまとめている。 【技能】(ワークシート)
3	律令制度の内容を通して、古代国家のしくみを理解する。	律令制度の内容を理解している。 【知識・理解】(小テスト)
4	奈良時代の人々の暮らしを理解し、律令制度の基盤である公地・公民の制度がくずれ始めた理由を考える。	貴族と農民の食事や住居を比較して、奈良時代の人々生活の様子を読み取っている。 【技能】(ワークシート) 口分田の不足から墾田永年私財法が出され、公地・公民の制度がくずれていった経過を理解している。 【知識・理解】 (ワークシート)
5	天平文化の特色を理解し、遣隋使や遣唐使の派遣が果たした役割について考える。	天平文化が仏教の影響、大陸との交流によって生まれたことを理解している。 【知識・理解】 (ワークシート)
6	平安京へ遷都した意義や平安時代初めの政治の特色について理解する。	平安時代の政治の目的、内容、結果をまとめている。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)
7	藤原氏が摂政や関白の地位を独占できた理由を考え、国風化した文化の特色を、代表的な事例を挙げて理解する。	意欲的に資料の読解に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】(観察) 系図などの資料にもとづいて、藤原氏が勢力を強めていった過程をとらえている。 【技能】(ワークシート)

8 本時の目標

- (1) 聖徳太子の政治改革を意欲的に学習している。
- (2) 聖徳太子が天皇を中心とする国家をめざした理由を資料から考察する。

9 人権教育の視点

- (1) 自他の意見の良い部分に気づき、自己の考えをまとめていく。【自己存在感】
- (2) 他の意見や考えを誠実に聞き、自他を尊重することができるようにする。【共感的人間関係】

10 本時の指導過程と評価

過程	学習内容・学習活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
導入	<p>1 聖徳太子の肖像画を見ながら、聖徳太子について知っていることを交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中が聖徳太子 ・聖徳太子が大きい ・手に笏（しゃく）をもっている。 ・向かって右が息子の山背大兄王（やましろうおおえのおう） ・向かって左が太子の同母弟の殖粟王（えくりおう）。 <p>2 本時の目標を提示する。</p>	<p>○姿勢を正して、気持ちよく挨拶することを確認する。 （心を通い合わせる挨拶）</p> <p>○聖徳太子とされる肖像画を見る。気づいたこと、知っていることを隣同士、前後で交流させて、その後、発表させる。 （協同学習）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他の人と考えを意欲的に交流して、思考を深めていく。 【共感的人間関係】</p> </div> <p>・交流する時間であることを黒板に示す。 （ユニバーサルデザイン）</p>	
<p>本時の目標：聖徳太子がめざした国家について考える。</p>			
展開	<p>3 聖徳太子の立場について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の推古天皇のおい ・母親は蘇我氏 <p>4 聖徳太子が推古天皇の摂政として政治に関わっていたことを確認する。</p> <p>5 聖徳太子の政治改革の資料から聖徳太子がめざした国家像について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠位十二階の制度 ・十七条の憲法 <p>ワークシートQ 「聖徳太子はどんな新しい国をつくらうとしたのか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役人たちが協力して政治を動かす国 ・天皇の命令に役人たちがしっかりと従わせる国。 	<p>○聖徳太子の立場を確認する。</p> <p>○聖徳太子が政治にかかわることになった経緯を説明する。</p> <p>○資料1「聖徳太子の改革」、資料2「十七条の憲法」、資料3「冠位十二階の制度」を見て、聖徳太子のめざした国家像と関係あるところに線を引かせる。</p> <p>○線を引いたところをペアで確認する。（協同学習）</p> <p>○その後、全体へ発表させる。</p>	

	<p>6 発言をもとに、本時の中心発問へ焦点化する。</p> <p>7 聖徳太子が天皇中心の国家をめざした理由を考察する。</p>	<p>○「天皇を中心とする国家」というキーワードを本時の目標に付け加える。</p> <p>○資料5「国内の情勢」、資料6「大陸の情勢」から考察させる。</p>	
<p>なぜ、聖徳太子は、天皇を中心とする国家をめざしたのか。</p>			
	<p>・小グループになって思考を交流し、ホワイトボードに書き出す。</p> <p>・ホワイトボードを黒板に掲示する。</p> <p>・豪族などが争っている国から、天皇を中心として朝鮮半島や隋に対抗できる国にするため。</p> <p>8 小グループと全体で交流したことに基づいて、個人で再び考え、ワークシートQ2に記述する。</p>	<p>・小グループで思考する時間であることを黒板に示す。 (ユニバーサルデザイン)</p> <p>・学習が進まない生徒に対しては読み取る資料を限定するよう支援する。</p> <p>・小グループで考えを共有するよう促し、一つにまとめる必要がないことを確認する。 (協同学習)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自他の意見の良い部分に気づき考えをまとめていく。 【自己存在感】</p> </div>	<p>○聖徳太子が天皇を中心とする国家をめざした理由について小グループでの学習に意欲的に取り組んでいる。 (行動観察)</p> <p>○聖徳太子が天皇を中心とする国家をめざした理由を述べることができる。 (ワークシート)</p> <p>・国内と大陸の情勢の両方にふれながら理由を述べることができる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>9 遣隋使派遣の資料を提示して、随と対等な関係を結びたかったことを説明しながら、本時の学習内容をまとめつつふりかえる。</p>	<p>・手をとめ、顔を上げて、まとめを聞く。(学習規律)</p>	

技術家庭科学習指導案

広島市立矢野中学校
教諭 植野 とも

- 1 日時・場所 平成25年12月11日(水) 6校時 1年2組教室
- 2 学年・学級 1年2組(男子17名 女子17名 計34名)
- 3 題材名 献立作りと食品の選択

4 題材について

○ 題材観

本題材は、中学生の1日分の献立作成と食品の見分け方に関する学習を通して、栄養を考えた食事の計画と食品の選択についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、これからの健康的な食生活を工夫しようとする能力を育てるという学習指導要領のねらいに沿い、設定されたものである。

前題材「食生活と栄養」では、食事が果たす役割や、健康によい食習慣、中学生に必要な栄養の特徴などについて学習している。中学生のこの時期にあたる食生活は、生涯の健康を支える身体をつくるためにもきわめて重要である。本題材の学習によって、前単元での学習内容を生かし、生徒が自らの食生活をよりよくしようとする実践的な態度を身につけるという点で適切な教材である。

○ 生徒観

小学校で学んだ五大栄養素を覚えていたり、中学校での調理実習も非常に楽しみにしている生徒が多く、「楽しく作って食べること」には関心が高く、意欲的である。しかし、日頃の食事では、日常食の洋風化から酢の物やぬたなど、生徒たちが普段食べ慣れないものが嫌いであるとか、魚は骨があって食べづらい、などといった偏食の多さに課題がある。本題材では、食生活と栄養素の学習と関連させながら、バランスのとれた献立の立て方を学習することで、生徒自身が自分の手で食生活をよりよくしようとする実践的な態度を高められると考える。

○ 指導観

本題材の学習を通して、正しい食生活の知識を身につけ、バランスのとれた食事を自分の手で工夫することの重要性を意識づける目的がある。指導にあたっては、前題材の食生活と栄養の学習内容と関連づけながら、生徒自身の食生活をよりよくなりたいという意欲を持たせる工夫をした。

また、本年度本校の研究主題『伝え合う力を高める指導法の工夫～聴く・つなぐ・もどす授業の展開～』に基づき、「安全・安心・学びのための学習規律」を定着させることに重点を置き、次のような取組を意識した授業づくりをする。

挨拶をそろえ、落ち着いた態度で授業を始めたい。また、ペアやグループで活動する場面でも相手の目を見て相槌を打ちながら聞くことで、より主体的な態度で活動に参加し、話す側も「聞いてくれている」という安心感の中で自信を持って自分の考えを表現できる環境をつくりたい。

5 題材の目標

- 食品の栄養的特徴、バランスのとれた食生活について考え、栄養を考えた1日分の献立を作成することができる。
- 消費者として望ましい態度と考え方を養い、正しい知識を持って食品の選択ができる。

6 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し想像する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
○日常食の献立と食品の 選び方について関心を もって学習活動に取り 組み、食生活をよりよく しようとしている。	○日常食の献立と食品の 選び方について課題を 見付け、その解決を目指 して工夫している。	○食品の選び方に関す る基礎的・基本的な技 術を身に付けている。	○日常食の献立と食品の 選び方について理解 し、基礎的・基本的な知 識を身に付けている。

7 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学 習 活 動	評価の観点・規準・方法
1	1 / 2 (本時)	<p><食品に含まれる栄養素を知ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品成分表を使い、身近な食品の栄養的な特徴を調べる。(本時) ・食品の可食部100gと1回に食べやすい量に含まれるカルシウムの量の違いを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質について理解している。(知)
2	1	<p><何をどのくらい食べればよいか考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品を栄養的な特徴により6つの食品群に分類する。 ・食品群別摂取量のめやすと1日に必要な食品の種類と概量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品群や食品群別摂取量のめやすについて理解している。(知) ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心を持ち、食品について調べたり、計量したりしようとしている。(関) ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。(知)
3	2	<p><バランスのとれた食生活を考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立の立て方について理解している。(知) ・中学生の1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。(工) ・必要な栄養を満たす食事のとり方をしようとしている。(関)
4	2	<p><食品の選び方を考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品や加工食品の特徴と品質の見分け方を知る。 ・食品を選択する観点について知る。 ・食品添加物について理解する。 ・食品のさまざまな保存方法を知る。 ・用途に応じた食品の選択について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品や加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。(知) ・食品の選択における観点について理化学している。(知) ・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。(技) ・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。(工)

8 本時の目標

- 食品成分表から情報を読み取り、食品に含まれる栄養素を知る。

9 人権教育の視点

- 自己存在感を持たせる支援を工夫する。
 - ・発表の機会を設け、生徒の発言を受け止めて授業の内容につなげていく。
 - ・ペアや少数数の学習体型を活用し、協力して学習できる場を設定する。
- 共感的人間的関係を育成する支援を工夫する。
 - ・チャイムと同時に授業を始め、チャイムと同時に授業を終える。(着ベル・ベルスタート)
 - ・協同学習の際、相手の意見を聴く態度など、話し合いの仕方を指導する。

10 本時の指導過程と評価

過程	学習内容・学習活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
導入	1. 挨拶、学習道具の確認、自己評価表の記入	<p><安全・安心・学びのための学習規律></p> <p>○着ベル、ベルスタートではじめのある挨拶を行う。</p>	
	2. 前時までの食生活と栄養の学習を振り返り、本時の目標を知る。	<p><すべての子どものためのユニバーサルデザイン></p> <p>○目標を板書する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 目標：食品に含まれる栄養素を知ろう </div>			
	3. いろいろな食品を組み合わせて食べるのはなぜか考え、発表する。	○デリバリー給食の献立表を提示し、「栄養素の種類と働き」の学習と関連させて考えさせる。	
展開	<p><食品に含まれる栄養素></p> <p>4. にんじんに含まれる栄養素を考えて発表する。 教科書 p. 30 の①図からそれぞれの食品に含まれる栄養素の違いや特徴を考え、発表する。</p>	<p>○教科書 p. 30 の①図を利用して、精白米、にんじん、まあじに含まれる栄養素の量を知らせる。</p> <p><すべての子どものためのユニバーサルデザイン></p> <p>○教科書やノートのページ数や問題番号をカードで提示する。</p> <p>○精白米やまあじと比較させ、食品によって含まれる栄養素の違いや特徴があることを知らせる。</p> <p><学び合うための協同学習></p> <p>○ペアで意見を交流させる。</p>	<p>[知識・理解]</p> <p>○食品に含まれる栄養素は、食品によって違いがあることを理解している。 (授業観察、ワークシート)</p>
	<食品成分表>	○教科書 p. 85～87 の食品成分表	

	<p>5. 食品成分表を使って、食品に含まれる栄養素を確認し、書き出してみる。</p> <p>6. 食品成分表を利用して、教科書 p. 31 の②図で示した食品以外で、たんぱく質やカロテンを多く含む食品を調べる。</p>	<p>の使い方を伝える。</p> <p>○ワークシートを利用して、実際の数値を書き出させる。</p> <p>○教科書 p. 31 の②図を使い、主な栄養素を多く含む食品を紹介するとともに、栄養素の働きと赤黄緑の関係を結び付けさせる。</p> <p><学び合うための協同学習></p> <p>○栄養素ごとに分担して調べ、調べた結果をグループで交流する。発表の仕方や聴き方を指導し、生徒同士が協力して学習を進められるよう支援する。</p> <p>○ビタミンや無機質などが多く含まれる食品は、食品に占めるビタミンや無機質の量はわずかであるが、非常に重要な働きをするものであることを伝える。</p>	<p>[関心・意欲・態度]</p> <p>○食品成分表を使い、身近な食品の栄養的な特徴を調べようとしている。(授業観察、ワークシート)</p>
<p>まとめ</p>	<p>7. それぞれの食品の中には多くの種類の栄養素が含まれ、栄養素的な特徴があることを理解する。</p> <p>8. 次時の学習内容を知る。 自己評価表の記入、挨拶</p>	<p>○1つの食品には数多くの栄養素が含まれ、栄養的な特徴があることを理解させる。</p>	

数 学 科 学 習 指 導 案

広島市立矢野中学校
教諭 山田 洋輔

- 1 日時・場所 平成25年12月11日(水) 6校時 2年6組教室
- 2 学年・学級 2年6組(男子22名 女子15名 計37名)
- 3 単元名 第4章 平行と合同
- 4 単元について

○ 教材観

この単元で学習する図形の知識のほとんどは、小学校ですでに学習している。しかし、小学校の学習では、具体物と結びつけ、操作活動などを通して、図形を構成する要素に少しずつ着目させ図形の性質や関係を見いださせるなど、直観的な扱いが中心であった。

第1学年では、小学校で学んできた基本的な図形を対称性の観点からとらえ、見直しを持って作図したり、作図方法の対称性に着目して見直したりする等の活動を通して、平面図形についての理解を深め、直観的な見方や考え方を伸ばし、論理的に考察する基礎を培ってきた。

そこで、本単元では、今までの操作活動などによって知るということから、ある明らかなことがらをもとに推論した内容が正しいかどうかを証明していくということに発展させていく。その際、今まで主としてきた直観的、帰納的な方法から、いくつかの基本的性質を使った演算的な推論によって図形の性質を調べていく方法を学ぶことができる。

○ 生徒観

基礎・基本定着状況調査において、平均通過率の本校平均(61.9)は県平均(69.0)、市平均(65.1)ともに下回っているものの、計算分野では県や市に近い数値であり、基礎的・基本的内容については、一定程度の定着が図られていると考えられる。しかし、関数分野や図形分野では通過率が低く、これらの分野の学習については課題がある。

本学級の生徒は、全体的に数学に対する興味・関心は高く、教師の問いかけに対する反応も多様で、前向きな気持ちで集中力を持続させて学習に取り組む生徒は多い。計算問題などの基礎的・基本的内容については定着しており、自信を持っている生徒が多い。しかし、思考を問う問題ではすぐにあきらめてしまう面や受動的になってしまう面がある。

図形分野においては、まだ小学校のころからの直観的、帰納的な方法で角度を求めたり、証明しようとしたりする生徒がおり、演算的な考え方に慣れていない生徒が多い。

○ 指導観

証明に関する学習するうえで、根拠を持って説明することに慣れさせたい。これまでは、直観的、帰納的な方法で求めていたものを、その都度根拠を問うことで演算的な見方や考え方に慣れさせるようにする。また、人権教育の視点から、今まで学習してきた根拠となることがらをフリップなどで掲示をし、どの根拠を利用すれば考えられるのかななどを視覚的に分かるようにするなどの工夫をしていく。

さらに、この図形分野ではいろいろな視点を持って解くことが可能なので、多面的な見方や考え方が出てくるようにしたい。今まで学習した内容をもとに星形五角形の頂角の和を求めるといった題材を取り上げ、演算的に考える方法を学ぶとともに、多面的な見方を見つけ出す楽しさを味わえるように構成していく。

5 単元の目標

根拠となることがらをもとに筋道を立てて説明することができる。

6 単元の評価規準

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
○ 観察・操作や実験を通して、平行線の性質や図形の合同などを基に基本的な性質を見いだしたり確かめたりするなど、数学的活動の楽しさや数学的に考察することの良さに気付く。	○ 平行線の性質・三角形の角・合同な図形についての基礎的な知識を身につけ、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察することができる。	○ 三角形や平行四辺形の性質など、図形の性質の考察において、推論の筋道を言葉で表現したり、数学的に用語・記号を用いて簡潔に表現したりすることができる。	○ 平行線の性質・三角形の合同条件などを理解している。

7 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学習活動	評価の観点・規準・方法
1	3	多角形の内角と外角 ・三角形の内角の和をもとに多角形の内角の和を求める方法を考える。 ・三角形の外角の和の求め方をもとに多角形の外角の和を求める方法を考える。	[見] 既習内容の三角形の内角・外角の和をもとに、多角形に発展して考察することができるか。
	3	平行線と角 ・図形の性質について理解し、証明することができる。	[知] 対頂角、同位角、錯角の意味を理解し、角度を求めることができるか。
2	1	合同な図形 ・合同な図形の性質を理解する。	[知] 図形の合同の意味を理解しているか。
	3	三角形の合同条件 ・合同な図形になるための条件を理解し、判断することができる。	[技] 三角形の合同条件を理解し、合同な三角形かどうか判断することができるか。
	2	証明の進め方 ・根拠となることがらを明らかにして、証明を筋道を立てて考えることができる。	[見] 仮定と結論をはっきりさせ、筋道を立てて証明することができるか。
	2 本時 2/2	章のまとめ ブーメラン形と星形五角形の角について考えることができる。	[見] 多面的な見方考え方ができているか。

8 本時の目標

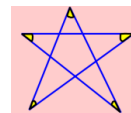
- これまでに学習した図形の性質を活用して、星形五角形の頂角の和が 180° になる理由を説明できるようにする。

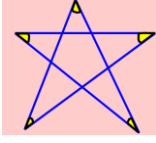
9 人権教育の視点

- 一人ひとりの存在や思いが大切にされる授業づくり
グループや全体の場での意見交流を通して、生徒一人一人の理解が深まるようにする。
- 伝え合う力を高める指導法の工夫
小グループでの意見交流の場を設定することによって、自分の考えを、自信を持って伝えられるようにする。
- すべての子どものためのユニバーサルデザイン
図形の性質など今まで学習した根拠となることがらを常に目につくところに掲示し、生徒が本時の学習に活用できるようにする。

10 本時の指導過程と評価

過程	学習内容・学習活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
導入 5分	あいさつ	休憩と授業とのけじめをつける。 ＜心を通い合わせる挨拶＞	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜導入課題＞ 自分の好きな星形五角形を書いて、先端にできる5つの角の和は何度になるだろうか？</p> </div>		
	1. 課題について直観的に予想をたてる	○実際に星形五角形を書かせ、関心を持って予想をたてられるように支援する。 ・ 90° ・ 180° ・ 360° ・ 540°	○興味・関心を持って取り組んでいるか。 。（発言）
	2. 結果を考える	○分度器で図る ○切って合わせる ↓	



		180° になりそう ○どんな星形五角形でもそうなるのかな？	
展開 5分	1. 課題の設定		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><課題> 星形五角形の頂角の和が180° になる 理由を説明しよう！</p>  </div>		
10分	2. 個人で考える	<p>図形の性質を確認する。 ○対頂角の性質 ○平行線と角 ○三角形の内角外角 ○ブーメラン形の角 ○ちょうちょ形の角 のカードを作り、確認させる。 <すべての子どものためのユニバーサルデザイン></p> <p>○図形の性質を使って考えられるように支援する。 ・三角形の内角を利用 ・ブーメラン形と対頂角の性質を利用 ・三角形の外角を利用 など</p> <p>○1つの考え方だけでなく、いろいろな考え方を見つけるように声かけをする。</p>	○多面的な見方考え方ができているか。 (ノート、発言)
5分	3. グループで自分の意見を発表し、意見交換する。	<p>○一人ひとりが途中でも考えた意見がいえるようにする。 ○何に着目しているのか、どんな考え方を使ったのかを説明できるように指示をする。 ○グループごとに考えるときに使う紙を渡す。 <学び合うための共同学習></p>	
20分	4. 考え方を発表する	<p>何通りかのやり方を机間指導の中で確認しておく。 グループごとに発表させる。 <安心・安全・学びのための学習規律> ○何に注目しているのか、どんな考え方を利用しているのかを明確にさせながら説明させる。 ○聞いている生徒はあいまいなところ、わからないところを質問できる時間も確保する。</p>	○他の考え方の良さに気付けるか(発表を聞く態度)
まとめ 5分	1. 本時の振り返り	○いろいろな方法を使って角を求めることができることを確認する。	

国語科学習指導案

広島市立矢野中学校
教諭 田村 紀子

1 日時・場所 平成25年12月11日(水) 5校時 3年4組教室

2 学年・学級 3年4組(男子19名 女子18名 計37名)

3 指導事項 読むこと (1) ア エ

- (1) 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。
人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
- (2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
比喩や反復などの表現の技法について理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。


4 単元名 峠

5 言語活動 ・小グループによる話し合い活動(内容や表現の仕方について、意見を交流する。)

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○キーワードの持つ意味を考えようとしている。	○表現の特徴に気づき、そこから作者の思い(この詩が表現しているもの)をとらえることができる。	○比喩などの表現の技法について理解している。

7 単元に関して

- 生徒の状況
 - ・これまでも詩の学習をしており、詩の形式や表現技法については学んでいる。
 - ・文学的な作品から、作者や登場人物の心情を読み取ることは、あまり得意ではない生徒が多い。
- 教材の価値
 - ・本教材は、峠と人生を重ね合わせた詩である。人生の決定を下すことはつらいものであるが、同時に未来へ進む明るいものでもある。進路選択のまっただ中、まさに「峠」に立っているこの時期の生徒達に、共感を与えられる。
- 指導の工夫
 - ・小グループでこの詩に描かれていることを話し合ってイメージ図を書くことにより、読み取りを深める。

8 単元の学習と評価の計画(全2時間)

時	学習活動(評価方法)
1 (本時)	・小グループで「峠」の詩の風景を絵にし、イメージを膨らませる。 ・キーワード(「あかるい憂愁」「別個の風景」など)が何を意味するのかを考えることにより、この詩が表現しているもの・作者の思いを読み取る。 (観察・プリント)
2	・表現技法を確認する。 ・自分にとっての「峠」を、絵と文章で表現する。(作文)

*準備物 「峠」のプリント(各自) イメージ図を描く用紙(グループごと) 教材提示装置

9 目標

- 「峠」「旅人」が表現するものを読み取り、人生の岐路にある人間の生き方を考えることができる。

10 人権教育の視点

- 共感的な人間関係を育成する。

11 学習展開

過程	学 習 活 動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
確 認 意欲付け	1. 「峠」の詩について学ぶことを確認する。	○自己評価表を配布する。	
	詩「峠」に描かれた作者の思いを読み取ろう。		
展 開	<p>2. この詩について、おおまかにとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導者の音読を聞く。 ○詩の形式を確認する。 ○小グループで、「峠」の詩の風景を自由にイメージして絵で表す。 <p>○イメージした絵を交流する。</p> <p>3. 語句の意味を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語辞典で、難語句の意味調べをする。 <p>4. キーワードを読み解くことで、詩の内容を読み取り、主題に迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キーワード「あかるい憂愁」「風景はそこで綴じあっている」「ひとつ」「別個の風景」「大きな喪失」など。 <p>○「峠」「旅人」は何を表現しているのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループでイメージを自由に話し合わせる。（協同学習） ○話し合いの時間を提示(ユニバーサルデザイン) ○各自の意見が反映されているか。 <p>○的確に意味を確認できているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○矛盾する言葉を探させる。 ○「旅人」がどこにいるのかを考えさせる。 ○同じ内容を表している言葉を見つけさせる。 <p>○「峠」＝「人生の岐路」「旅人」＝「人生の岐路にある人」を確認し、今の自分の姿と重ねあわせる。</p>	<p>関心意欲</p> <p>比喩的に表現しているキーワードが、何を指しているのかを意欲的に考えようとしている。 (観察・プリント)</p> <p>読む</p> <p>キーワードから、「峠」が人生の岐路を表現していることを読み取っている。 (観察)</p>
日常化 一般化	5. 自己評価表を記入する。	○本時の授業について、自己評価をさせる。	